

## 事業主体

新潟県立大学

## 調査研究名

子どもの非認知能力を伸ばす放課後児童クラブ支援

## 調査研究の概要

子どもの発達のためには、勉強などの認知能力(学力などの数字で測れる能力)だけではなく、非認知能力（生きる力やコミュニケーション能力など学力で測れない能力）を伸ばすことが大切である。この非認知能力の醸成に寄与するために開発された子供支援プログラムを実施する。

## 実施内容

市が直轄する放課後児童クラブ 12 か所で子供たちに育成支援、遊び支援、宿題支援などの子供支援プログラムを実施。福祉系の教員と大学生で組織したスタッフを派遣し、有効性を検証した。

1) 令和 1 年 9 月 5 日（木）～7 日（土）

スタッフ 22 名

支援先 市内放課後児童クラブ 12 か所

2) 令和 2 年 3 月 5 日（木）～7 日（土）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、中止

## 調査研究期間

令和元年 9 月 5 日～令和 2 年 3 月 1 0 日

## 南相馬市の課題

調査研究により

「継続的な子供支援プログラムの活用が子供と大人の間信頼関係を形成し、さらに信頼関係に基づく適切なかわりによって、子供たちの非認知能力の醸成が可能である」ことが分かったが、交流の場が少ない。

という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

## 課題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

南相馬市の児童センターは、地域の様々な人たちが集うことのできる地域の社会資源。地元の大人が継続的に地域の子供たちにかかわることが出来るよう、本来の児童センター機能を再開することが望まれる。